

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】令和 2 年 1 月 9 日 (2020.1.9)

【公開番号】特開 2018-109802 (P2018-109802A)
 【公開日】平成 30 年 7 月 12 日 (2018.7.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-026
 【出願番号】特願 2016-256227 (P2016-256227)
 【国際特許分類】

G 1 6 H 10/00 (2018.01)

A 6 1 B 5/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 Q 50/24

A 6 1 B 5/00 F

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 21 日 (2019.11.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

端末装置であって、

被写体として健康機器を撮像する撮像部と、

前記撮像部により生成された撮像画像に含まれる前記健康機器の画像から、前記健康機器のディスプレイに表示された測定結果を示す文字列を認識する認識部と、

前記撮像部により生成された撮像画像と、前記測定結果を示す文字列を前記認識部が認識する際にユーザの操作を補助するためのガイドと、を前記端末装置のディスプレイに表示させる表示制御部とを備え、

前記ガイドは、前記認識部の認識範囲を示す第 1 のオブジェクトを含み、

前記測定結果は、前記健康機器の測定値を含み、

前記測定値を示す文字列は、7 セグメント表示方式の文字で構成されており、

前記ガイドは、前記第 1 のオブジェクト内に存在する、7 セグメントにおける各セグメントを示す第 2 のオブジェクトをさらに含む、端末装置。

【請求項 2】

前記ガイドは、前記健康機器の形状を表わす第 3 のオブジェクトをさらに含む、請求項 1 に記載の端末装置。

【請求項 3】

前記表示制御部は、前記測定値を示す文字列の認識結果である認識文字列が表わす数値が所定範囲外である場合、異常情報を前記端末装置のディスプレイに表示させる、請求項 1 または 2 に記載の端末装置。

【請求項 4】

前記表示制御部は、前記測定値を示す文字列の認識結果である認識文字列に含まれる複数の認識文字の各々を、当該認識文字の認識の正確さを示す確度に応じた所定の色で前記端末装置のディスプレイに表示させる、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の端末装置。

【請求項 5】

前記表示制御部は、前記測定値を示す文字列の認識結果である認識文字列に含まれる複数の認識文字の各々について、当該認識文字の認識の正確さを示す確度を示す情報を前記

端末装置のディスプレイに表示させる、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の端末装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

次に、端末装置 10 は、表示測定値を示す文字列の認識結果である認識文字列に含まれる複数の認識文字の各々について、当該認識文字についての確度が閾値 $Th1$ （例えば、85%）未満であるか否かを判断する。例えば、図 4 に示されるように、最高血圧値を示す文字列「118」が撮像画像に含まれており、文字認識により認識文字列「118」が得られたとする。この場合、各認識文字「1」、「1」、「8」についての確度は、例えば、それぞれ「85」、「90」、「95」のように取得される。端末装置 10 は、各確度「85」、「90」、「95」が閾値 $Th1$ 未満であるか否かを判断する。なお、端末装置 10 は、最低血圧値を示す文字列、および脈拍数を示す文字列についても同様の判断を行なう。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

次に、周期 $p+1$ で生成された撮像画像 726 では、最高血圧値の百の位を示す領域が、画面輝度が高い領域 754 と重なっている。この場合、端末装置 10 は、撮像画像 726 から、閾値 $Th2$ 未満の確度を有する認識文字以外の残余の各認識文字に対応する各文字（この場合、最高血圧値の百の位の文字以外の各文字）を含む領域を切り取った部分画像 728 を生成する。端末装置 10 は、部分画像 728 をメモリ 154 に格納する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0106

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0106】

図 13 を参照して、ステップ $S50 \sim S56$ の処理は、それぞれ図 12 中のステップ $S10 \sim S16$ の処理と同様であるため、その詳細な説明は繰り返さない。表示測定値を示す文字列の認識結果である認識文字列に含まれる複数の認識文字の各々についての確度が閾値 $Th1$ （例えば、85%）以上である場合（ステップ $S56$ において YES）、ステップ $S66$ 、 $S68$ の処理を実行する。ステップ $S66$ 、 $S68$ の処理は、それぞれ図 12 中のステップ $S24$ 、 $S26$ の処理と同様であるため、その詳細な説明は繰り返さない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0107

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0107】

複数の認識文字のうちの少なくとも 1 つの認識文字についての確度が閾値 $Th1$ 未満である場合（ステップ $S56$ において NO）、プロセッサ 152 は、当該複数の認識文字の各々についての確度が閾値 $Th2$ （例えば、40%）以上か否かを判断する（ステップ $S58$ ）。複数の認識文字の各々についての確度が閾値 $Th2$ 以上である場合（ステップ S

58においてYES)、ステップS60～S64、S68の処理を実行する。ステップS60～S64、S68の処理は、それぞれ図12中のステップS18～S22、S26の処理と同様であるため、その詳細な説明は繰り返さない。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0116

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0116】

表示測定値に対応するすべての認識文字についての確度が所定閾値以上であると判断した場合、端末装置10は、これらの認識文字から構成される認識文字列を血圧計20の測定値としてディスプレイ158に表示する(ステップE)。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0118

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0118】

(3) 上述した実施の形態において、コンピュータを機能させて、上述のフローチャートで説明したような制御を実行させるプログラムを提供することもできる。このようなプログラムは、コンピュータに付属するフレキシブルディスク、CD-ROM (Compact Disk Read Only Memory)、二次記憶装置、主記憶装置およびメモリカードなどの一時的でないコンピュータ読取り可能な記録媒体にて記録させて、プログラム製品として提供することもできる。あるいは、コンピュータに内蔵するハードディスクなどの記録媒体にて記録させて、プログラムを提供することもできる。また、ネットワークを介したダウンロードによって、プログラムを提供することもできる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】図面

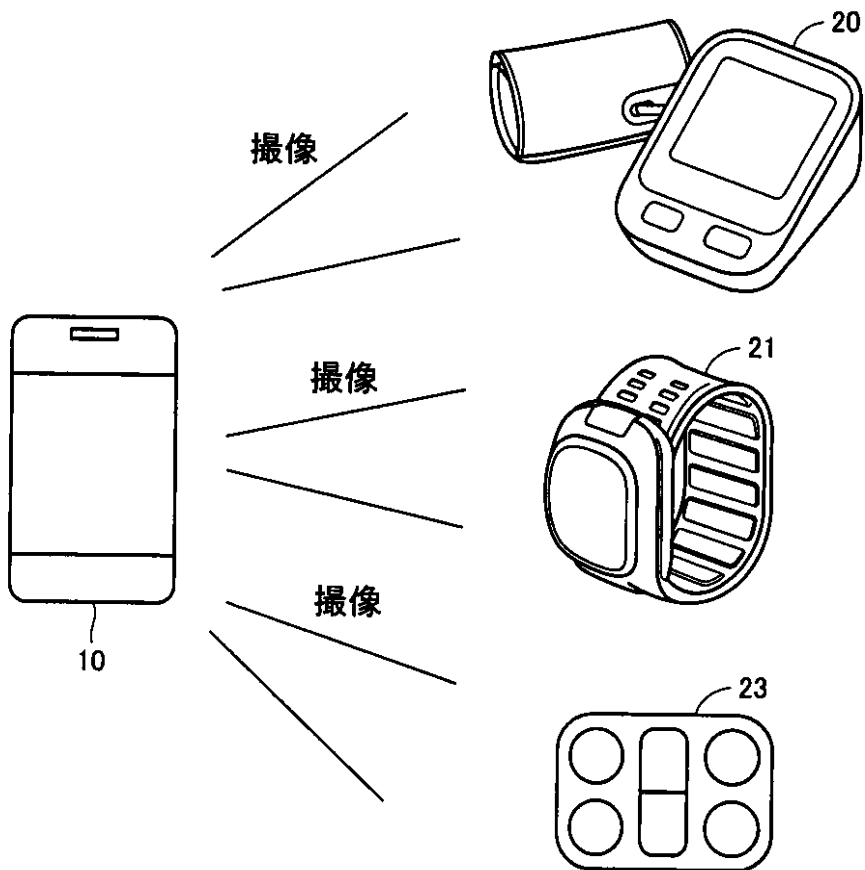
【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

図1



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 13】

図13

